

殺菌剤

ランマンフロアブル



殺菌剤分類

21

農林水産省登録	第20624号
有効成分	シアゾファミド・・・・・・・・・・9.4% (w/w) [10.0% (w/v)]
性状	淡褐色水性和性粘稠懸濁液体
人畜毒性	普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
有効年限	3年
包装	(100mL×10本) × 6箱 500mL × 20本

特長

✓ 優れた予防効果・残効性・耐雨性

優れた残効性と耐雨性により安定した予防効果が期待できます。残効が長く、作物・生育ステージによっては、10～14日間隔の散布も可能で、農薬使用回数の低減につながります。

✓ まん延防止効果（サニテーション効果）

予防効果主体の薬剤ですが、遊走子のう形成阻害作用に優れ、次世代の菌密度を効率的に抑えるので、未感染葉や周辺株への病害進展を防ぎます。

✓ 病原菌の各生育ステージを低濃度で阻害

胞子発芽から胞子形成に至る各生育ステージを阻害し、安定した防除効果を示します。

✓ 登録作物が多い

主要作物からマイナー作物まで様々な作物に登録があるので汎用性が高く、使いやすい薬剤です。

適用作物と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り使用 用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアゾファミド を含む農薬の総 使用回数	
稲（箱育苗）	苗立枯病 （ピシウム菌）	1000倍	育苗箱 （30×60×3cm 、使用土壌約 5ℓ）1箱当り 0.5ℓ	は種時	1回	土壌灌注	1回	
				発芽後～緑化期				
ぶどう	べと病	1000～2000倍	200～700ℓ	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	
かんきつ	褐色腐敗病	2000倍		収穫前日まで				
いちじく	疫病			収穫3日前まで				
日本なし								
小麦	褐色雪腐病	1000倍	100ℓ	根雪前	3回以内	無人航空機による散布		
		250倍	25ℓ					
		8倍	0.8ℓ					
あずき	茎疫病	原液	種子重量の2%	は種前	1回	種子塗沫	4回以内 （種子への処理 は1回以内、散布 は3回以内）	
		1000倍	100～300ℓ	収穫7日前まで	3回以内	散布		
だいず		原液	種子重量の1～ 2%	は種前	1回	種子塗沫		
	茎疫病 べと病	1000～2000倍	100～300ℓ	収穫7日前まで	3回以内	散布		
えだまめ	茎疫病	原液	種子重量の2%	は種前	1回	種子塗沫		
	茎疫病 べと病	1000～2000倍	100～300ℓ	収穫3日前まで	3回以内	散布		
さといも		2000倍		100～300ℓ	収穫前日まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内
		32倍	3.2ℓ					
		16倍	1.6ℓ					
ばれいしょ	疫病	1000～2000倍	100～300ℓ	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内	
		375倍	25ℓ					
		600倍	40ℓ					
		32倍	3.2ℓ					
		16倍	1.6ℓ					
キャベツ	べと病 ピシウム腐敗病	2000倍	100～300ℓ	収穫3日前まで	4回以内	散布	6回以内 （育苗期の灌注 は1回以内、本圃 での株元灌注は1 回以内、散布及び 無人航空機散布 は合計4回以内）	
		32倍	3.2ℓ					
		16倍	1.6ℓ					
	根こぶ病	2000倍	250ml/株	収穫14日前まで	1回	株元灌注		
	根こぶ病	500倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約2.5～7ℓ）当り2ℓ	定植前日～当日	1回	灌注		
カリフラワー	べと病	2000倍	100～300ℓ	収穫3日前まで	4回以内	散布	6回以内 （育苗期の灌注 は1回以内、本圃 での株元灌注は1 回以内、散布は4 回以内）	
	根こぶ病		250ml/株	収穫14日前まで	1回	株元灌注		
	根こぶ病	500倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約2.5～7ℓ）当り2ℓ	定植前日～当日	1回	灌注		
はくさい	べと病 ピシウム腐敗病 白さび病	2000倍	100～300ℓ	収穫3日前まで	4回以内	散布		
	根こぶ病		250ml/株	収穫14日前まで	1回	株元灌注		
		根こぶ病	500倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約2.5～7ℓ）当り2ℓ	定植前日～当日	1回		
非結球あぶらな 科葉菜類（なば な類を除く） エンサイ	白さび病	2000倍	100～300ℓ	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	
なばな類	白さび病	2000倍	100～300ℓ	収穫3日前まで	3回以内	散布	4回以内 （灌注は1回以内、 散布は3回以内）	

ブロッコリー	根こぶ病	500倍	(30×60cm、使用土壌約2.5～7ℓ) 当り2ℓ	定植前日～当日	1回	灌注	5回以内 (育苗期の灌注は1回以内、本圃での株元灌注は1回以内、散布は3回以内)	
		2000倍	250ml/株 100～300ℓ	収穫14日前まで 収穫3日前まで		株元灌注		
	べと病	1000～2000倍	150～300ℓ	収穫前日まで	3回以内	散布		4回以内
		1000倍	100～300ℓ		4回以内			
褐色腐敗病		1000～2000倍	150～300ℓ		2回以内		2回以内	
	疫病	2000倍 1000倍	100～300ℓ					
かぼちゃ	べと病 疫病	2000倍	150～300ℓ		3回以内		3回以内	
トマト ミニトマト	疫病	1000～2000倍			4回以内		4回以内	
ピーマン とうがらし類		2000倍	100～300ℓ	収穫3日前まで				3回以内
なす	べと病				収穫7日前まで		4回以内	
ねぎ								
わけぎ レタス 非結球レタス ほうれんそう 葉たまねぎ								
たまねぎ	べと病 白色疫病							
みょうが(花穂)	根茎腐敗病	500倍	3ℓ/㎡	生育期 但し、 収穫3日前まで	3回以内	土壌灌注	4回以内 (種根茎浸漬は1回以内、土壌灌注は3回以内)	
みょうが(茎葉)	根茎腐敗病	200倍	—	植付前	1回	30分間 種根茎浸漬		
		500倍	3ℓ/㎡	みょうが(花穂)の収穫3日前まで 但し、花穂を収穫しない場合に あつては開花期終了まで	3回以内	土壌灌注		
								しょうが
葉しょうが		500～1000倍	3ℓ/㎡	生育期 但し、 収穫3日前まで	3回以内	土壌灌注		3回以内
こんにゃく	根腐病	収穫14日前まで						
畑わさび	白さび病	2000倍	150～300ℓ	収穫7日前まで	2回以内	散布		2回以内
わさび				畑育苗期				
かぶ	べと病 白さび病		100～300ℓ	収穫3日前まで	3回以内	散布		4回以内 (は種時の灌注は1回以内、散布は3回以内)
	根こぶ病		2ℓ/㎡	は種時	1回			
だいこん	ワッカ症 白さび病		100～300ℓ	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	
はつかだいこん	ワッカ症 白さび病 べと病							
みつば	べと病			収穫3日前まで 但し、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	2回以内		2回以内	
バジル				収穫3日前まで	4回以内		4回以内	
おかひじき								
らっきょう	白色疫病		100～300ℓ					
いちご	疫病	500～1000倍	50ml/株	育苗期	2回以内	株元灌注	4回以内 (育苗期は2回以内、定植後は2回以内)	
			100ml/株	生育期 但し、 収穫30日前まで				
ホップ	べと病	2000倍	200～700ℓ	収穫14日前まで		散布	2回以内	

※ 本内容は2025年1月29日付の登録内容に基づいています。

効果・薬害等の注意事項

- 使用直前に容器をよく振ること。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 予防効果主体の剤なので、出来るだけ発病前又は発病初期に散布すること。
- 小麦、ばれいしょに対して少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用すること。
- 根こぶ病防除に使用する場合、発病が激しいほ場では効果が劣ることがあるので、土壌処理剤と組み合わせて使用すること。
- キャベツに灌注処理する場合、品種によっては、初期に軽度の生育抑制がみられることがあるが、実用上は問題無い。
- 本剤を使用したわさびの苗を畑地からわさび田に移植する場合には、使用した農薬がわさび田の水系に持ち込まれないよう、わさびの苗に付着した土を十分に洗い落とすこと。
- みずかけな（水掛菜）に使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用すること。また、使用后14日間は入水しないこと。
- あずき、だいず及びえだまめの種子塗沫に使用する場合は次の注意事項を守ること。
 - ・使用前に容器をよく振ってから塗沫処理を行うこと。
 - ・薬剤の使用量を守り、水等で希釈せずに使用すること。
 - ・塗沫処理はは種当日または前日に行なうこと。
 - ・薬剤が種子に均一に付着するように処理した後、すみやかに広げて乾燥させること。
 - ・本剤を処理した種子を食用など目的外に使用しないこと。
 - ・本剤処理後ののは種から発芽までの時期は土壌が過湿にならないように注意すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
 - ・散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - ・散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - ・散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ・散布薬液の飛散による他の分野への影響に注意して、散布地域の選定に注意をし、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
 - ・散布終了後は、次の項目を守ること。
 - (a) 使用後の空容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。
 - (b) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。
 - (c) 機体の散布装置は十分洗浄すること。また、薬液タンクの洗浄廃液は河川等に流さないこと。
- 散布器具の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、容器等は環境に影響を与えないよう安全に処理すること。
- 使用液量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- 本剤の使用に当っては、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。
なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項



- 使用の際は不浸透性手袋などを着用すること。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

魚毒性等

浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

保管

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。